



平成 30 年 7 月の園だより

お泊り保育を終えて

梅雨真ただ中の 6 月 29 日 30 日に年長組さんは、『野外活動センター子ども村』にお泊り保育に行ってきました。

近年、姉妹園では、「お泊り保育での年長さんは、自分でできることも「できない。やって。」とすぐに諦めたり、出発の際、見送るお母さんが泣いている姿を見て、「お母さんがいい」とバスの中で泣いてしまう姿が見られたり、眠るときに紙パンツをはかせてほしいという要望が多い。」などといった問題点が挙げられています。私は、すいこうでのお泊り保育は初めての経験ですので、どのようなお泊りが展開されるのか、職員間で打ち合わせをしながらワクワクしていました。

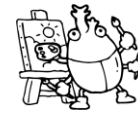
当日、登園時にいつもと違う雰囲気戸惑い、涙を見せる子どももいましたが、すぐに涙は止まり、バスの中では、笑顔も見られました。見送ってくださる保護者も笑顔で見送ってくださるので、子どもたちはみんな安心して出発したようです。見送る保護者は、「大丈夫、頑張ってるよ。」というまなざしで見送り、出発する子どもたちは「頑張ってるよ。」と心と心がつながっているようでした。そう思ったのには理由があります。それは、このお泊り保育のメインイベントとなる芝滑りに使うそりをご家庭で作っていただきました。何日もかけて保護者の方とお子さんが一緒に作ったそりには、さまざまな工夫やアイデアが盛り込まれていました。工夫だけではなく「芝滑りは面白いぞ。しっかり楽しんでおいでね。」という保護者のこころもちがそれぞれのそりから伺えたのです。親子でお泊り保育を楽しみにされていたのですから、子どもたちの気持ちは、淋しさよりも楽しみな気持ちが勝っているはずですよ。

子どもたちは、およそ 1 時間、バスに揺られて、『野外活動センター』に到着しましたが、大雨。「活動をどう変更しよう。」という保育者の思いとは裏腹に子どもたちは、保育者が広げた大きなシートの下に入り、シートと一緒にバスから館

内に楽しそうに移動していました。「青い屋根だ。」とか、「大きな傘だ。」などと、どんなことでも楽しみに変えられる子どもたちは、素晴らしい感性を持っています。野外活動センターは、雨が降ったときのプログラムも子どもたちが十分楽しめるように計画してありますので、ゲームをしたり、予定通り夕食の下準備をしたり、少しの晴れ間を見つけてウォークラリーをしたり…。メインイベントの芝滑りとキャンプファイヤーの時間は、奇跡的に雨が上がり、十分楽しむことができました。みんなで作ったおいしい夕食、ドカーンと夜空を美しく演出する花火、更にはみんなで入った大きなお風呂と子どもたちの心をわくわくさせる体験が続き、自然の中での活動を満喫したようで、あっという間に眠りにつきました。

この二日間、子どもたちは、保育者や友だちの助けを借りながらも自分のことは、自分でしようと頑張っていました。そんな子どもたちの姿は、けなげで愛おしく心からかわいいと思いました。しかし、中には、食事の下ごしらえに飽きてしまうとふらっとその場からはなれたり、芝滑りの最中も捕まえたカエルをぎゅっと握ってつぶれそうになったり、それを注意した友だちとけんかになったりと年長児らしくない姿もありました。

この自然の中でお泊り保育を行うにあたっては、二日間を元気に過ごす体力、しっかり大人の話を聞いて行動する力、自分のことは自分でやろうとする気持ち、そして仲間と協力し、仲間を思う気持ちが何より大切です。それらの力と気持ちは、お泊り保育に行ったから育つのではなく、その力がついている子どもがお泊り保育に参加でき、そこで自分でできたという自信を大きくして小学校に入学するための準備をするのだと思っています。お泊り保育に自信を持って参加させてあげられるよう、自分のことは自分でやろうとする意欲、排泄、着脱などの生活習慣の自立にむけて、小さいころから関わっていくことが大切では



お泊り保育 特集号

ないかと思えます。

保育園の中で、子どもたちは仲間とともに過ごし、自らあそびに関わり、その中でたくさんのお話を学びあっています。困ったことがあったら、自分で考え、友だちに助けをもらいながら乗り越えている子どももいます。ご家庭では、お子さんが保育園で楽しく過ごせるように、生活のリズムを整え、その年齢に合った基本的な生活習慣を身に付けられるよう関わっていただければと思います。そして、良いことと悪いことを自分で考えて判断し、行動できる子に育てていくために、4 月よりお伝えしていることですが、小さいときからしっかり可愛がり、自己肯定感を育てていくことが何より大切なことです。楽しさだけが先行し、自分でできることも周りの大人に甘えてやってもらったり、自分の思いで行動したりすることが多いようでは、お泊り保育を行うことの意味がなくなってしまうのではないかと危惧しています。これからのお泊り保育の在り方を考える上でも保護者の皆さんがご家庭での過ごし方を見なおす機会にいただければと思います。

最期に、大きな事故もなくお泊り保育を終えられたと思っていましたが、月曜日の朝、お泊りの間に前歯を脱臼していたお友だちがいたことがわかりました。保護者の方の話によると眠る前トイレで滑って口を打ったということでした。痛かったのにそれを伝えることもなく、我慢していたんだと思うと、とても申し訳なく、悲しい気持ちになりました。私以上に保護者の方は、辛く、たくさんのお母さんがいたのにと腹立たしい思いだったことでしょう。でもそのお子さんのお母さんは、「二日間で大丈夫、大きくなってきました。」と喜んでくださいました。その優しさに救われ、心から感謝するとともに今後このようなことが起こらないよう、職員一同、一人ひとりを大切に関わっていかなくてはと心に刻みました。

園長

お泊り保育
～子どものすがた～



雨の中のお泊り。一人として残念がる子どもはいませんでした。子どもたちのお泊りに対する期待感が伝わってきます。私たち保育者も雨を恨んではいけませんと子どもたちから教えられました。

お泊り保育の夕食は、バーベキュー。子どもたちは、「お肉をいっぱい食べる」と張り切っていました。お肉ばかりではなく、焼きそばの中のピーマンやねぎもしっかり食べていました。自分で下ごしらえをすると、食べたい気持ちになるのですね。

大事なそりだけど、大好きな先生にも乗せてあげたい T ちゃん。でも大人が乗るとちょっとびり圧がかかって大事なそりが途中でボキ！大好きな先生をじろりと横目で見る T ちゃんでした。

楽しかった芝滑り。すべるために坂の上に乗るのも一苦労。でも何度も何度も繰り返し、そりがぼろぼろになる子も…。「先生も一緒に乗っていいよ」という言葉には、「お父さんが作ってくれたそり、すごいでしょ！乗せてあげるよ。」という想いが隠れているようでした。ご協力ありがとうございます。

眠る前、S くんが、「いよいよ明日は帰る日だ。まだ泊まりたい。」とつぶやいていました。

「いよいよ」という気持ち。わかるよ！！

お泊り保育
～楽しかったことベスト3～

1. 芝滑り
なんと言っても自分のそりは最高です！
2. バーベキュー
美味しかったよ！！
3. キャンプファイヤー
踊ったり、歌ったり…楽しかった！
でもね、本当は全部！